

# 熊本大学医学部附属病院 小児外科・移植外科 専門修練プログラム

## 1. プログラムの概略・特徴

小児外科・移植外科は、外科の中でも特に専門性の高い領域であるが、その専門領域を極めるためには、まず、一般成人外科の知識と技術を身につけることが必要不可欠である。そのため、当科入局者も最初の3～4年間は、関連病院で小児外科疾患を扱うと同時に、一般消化器外科、乳腺外科の研修、実践（施設によっては、心臓外科、胸部外科にローテーションもあり）を行うことを原則としている。入局後の、最初の目標は外科専門医の取得にあるので、申請に必要な幅広い症例数を経験できるように学内外の研修先では配慮している。

一般外科の修練を終了し、外科専門医を取得した後は、それぞれの目指す専門領域、すなわち小児外科ないしは移植外科へ進むこととなるが、さらにハイレベルな外科医、小児外科医、移植外科医を目指すためには、臨床のトレーニングだけでは限界があり、リサーチの経験が非常に重要となる。そのため、一定期間の外科修練を終了した者には、大学院へ進学し、博士号を取得することを勧めている。

リサーチ終了後は（本人の希望によっては大学院へ進学せず、そのまま臨床医を続けることも可能）、海外への留学、いわゆる小児病院での小児外科に特化した修練、あるいは、大学での移植外科医としてのスペシャリティトレーニングと、それぞれの希望に応じた道を選択することができる。

## 2. 研修目標

### 【一般目標】

まず、外科専門医が取得できるような、幅広い外科疾患の経験をめざす。その後、小児外科、移植外科といった、専門領域のスペシャリストをめざす。可能ならば、リサーチを行い、海外留学し、幅広い知見、考え方を身につける。

### 【行動目標】

- 1) 消化器外科疾患、小児外科疾患を中心とした、外科専門医取得に必要な症例について、診断法、治療法などを学ぶ。
- 2) 小児外科、移植外科といった専門領域に進むために必要な基本的な外科的手術手技を身につける。
- 3) 大学院に進学し、博士号を取得する。可能なら卒業後は海外へ留学する。
- 4) いわゆる小児病院などの小児外科に特化した病院で修練し、小児外科の専門医、指導医を取得する。
- 5) 大学で臓器移植の専門的な知識、技術を修得すると同時に消化器外科の専門医を取得する。

## 3. 研修スケジュール

3年目～10年目の代表的パターン

	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
A	大学病院	関連施設		大学院			留学	
B	関連施設		大学病院	大学院			小児病院	
C	大学病院	関連施設			大学院			
D	大学病院	関連施設	大学病院	小児病院		関連施設		

#### 4. 評価

適宜、修練状況を評価し、個人個人にあった修練環境を提供する。

#### 5. 募集人員

若干名

#### 6. 実施責任者

猪股裕紀洋（教授）

#### 7. 指導責任者

阿曾沼克弘（移植医療学 特任教授）、武市卒之（助教）、山本栄和（助教）、李 光鐘（助教）  
大矢雄希（助教）、奥村健児（助教）

#### 8. 関連施設、学会認定状況

##### 【関連施設】

熊本市民病院、熊本赤十字病院、倉敷中央病院、熊本地域医療センター、八代郡医師会立病院、  
広島市民病院、都立清瀬小児病院

##### 【学会認定状況】

日本小児外科学会専門医修練認定施設

#### 9. その他

臓器移植という人手のかかる仕事をしているので、とりわけチームワークが大切であり、厳しさの中にも和気藹々とした雰囲気を保つことをモットーとしている。先進医療を通じて新しい情報を世界に発信していくとともに、忙しくても働き甲斐のある職場環境造りを目指している。

#### 10. 連絡先

小児外科・移植外科 医局長 武市卒之（たけいち たかゆき）

TEL: 096-373-5618

E-mail: ttakeichi@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp